

平成 23 年 9 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社コックス
 代表者名 代表取締役社長 池内 清和
 (JASDAQ・コード9876)
 問合せ先
 常務取締役経営管理統括部長 高野 秀明
 TEL03(5821)6070

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 24 年 2 月期（平成 23 年 2 月 21 日～平成 24 年 2 月 20 日）の第 2 四半期（累計）業績予想について、平成 23 年 4 月 5 日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 2 月期連結業績予想の修正

(1) 第 2 四半期（累計）（平成 23 年 2 月 21 日～平成 23 年 8 月 20 日）

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	13,430	△218	△148	△818	△29.68
今回修正予想 (B)	12,782	△771	△666	△1,166	△42.35
増 減 額 (B－A)	△648	△553	△518	△348	—
増 減 率 (%)	△4.8	—	—	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 2 月期第 2 四半期)	7,800	△165	△97	△354	△29.64

(2) 第 2 四半期修正理由

当上半期の業績は、営業収益 127 億 82 百万円、営業損失 7 億 71 百万円、経常損失 6 億 66 百万円、四半期純損失 11 億 66 百万円と当初予想を下回る見込みとなりました。

3 月に発生した東日本大震災の影響により第 1 四半期の既存店売上高前年比は 88.7%と落ち込み、第 2 四半期は節電関連商品の販売や被災地域の復興需要等により回復してまいりましたが、震災の影響による落ち込みを挽回するには至りませんでした。また、震災の影響による春物商品の値下げ販売と夏物セールの早期化及び長期化に伴い売価変更が増加し、営業総利益率が 51.8%と低下したことも利益未達の大きな要因となりました。一方、販売費及び一般管理費は、本社人員の削減と店頭の投入労働時間コントロールの精度アップなどにより、当初計画より約 3 億 50 百万円削減となり、ローコストオペレーションの徹底が進んでまいりましたが営業総利益のマイナスをカバーするには至らず、公表数値を下回ることとなりました。

当上半期は、今後の成長戦略実現のために主要三世代トップブランドの確立に向けた既存ブランドの再編とリブランディングの推進、マザーブランド「C I Q U E T O」化の推進を進めるとともに、不採算ブランドの店舗閉鎖、アウトレット業態「カレント」の出店開始、E コマースの本格的展開、上海への本格出店開始など、中期経営計画に沿った、構造的な変革を進めてまいりました。

下半期においては、主要３ブランドのリブランディングが終了し下期に効果が表れてくることや上半期の取組みから効果の表れてきた施策、大型ブランド複合店舗「C I Q U E T O」の展開の推進及びアウトレット業態「カレント」の推進、また、不採算事業の店舗閉鎖が終了すること並びに構造改革推進に伴うＳＰＡ対応力の強化など各種の強化策を通じ、当初計画の達成を目指してまいります。

２．平成 24 年 2 月期個別業績予想の修正

（１）第 2 四半期（累計）（平成 23 年 2 月 21 日～平成 23 年 8 月 20 日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	13,400	△190	△120	△790	△28.67
今回修正予想 (B)	12,756	△748	△647	△1,145	△41.57
増 減 額 (B－A)	△644	△558	△527	△355	—
増 減 率 (%)	△4.8	—	—	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 2 月期第 2 四半期)	7,789	△153	△86	△343	△28.71

（２）第 2 四半期修正理由

第 2 四半期における個別の修正についても連結と同様の理由です。

以 上